

音楽の力で魅了

九月六日、七日の二日間にあつて行われた脇高祭。その中でも注目を集めたのが体育館で行われたライブである。様々なステージショーは多くの人を熱狂させた。オープニングライブでは、三年生によるバンド演奏が行われた。幕が上がるのと同時にステージの下に駆け寄り、飛び跳ねたり、拳を振り上げる脇高生の姿は、すごいエネルギーだ。それに応えるように、ギターやドラム、ベースの音が体育館中に響き渡る。待ちに待った脇高祭が始まる瞬間だ。

出場したグループは三つほど種類があつた。一つはバンド演奏。各自が楽器を演奏し、プロも顔負けの迫力のある演奏を体育館いっぱい響かせていた。二つ目はカラオケである。中には弾き語りもあり、各自が披露する歌声は素晴らしいものであつた。三つ目はダンスである。今流行のJ-POPの代表格、少女時代やKARA、オ리콘一位もたびたびついでにNEA 48など盛り上がるダンスだつた。次世代のアイドルを脇高内で作る事が出来るほど、クオリティが高いものばかりだつた。初めての脇高祭を経験した一年生は「楽しかった。」「中学校の文化祭と違ってクオリティも高く迫力があつた。」「みんな盛り上がるのでよかった。」「等、答えており、良いライブだつたことがわかる。このライブは二日間行われているが、ステージ付近には飛び上がる生徒や歓声を上げる生徒

であふれており、文化祭の中でも一番熱気に包まれていた。一グループ三、四曲ほど歌っており、曲が終わると同時に生徒によるアンコールの音が場内に響きわたつた。

個人、個人が知っている曲、知らない曲はもちろんあるであろうが、友人の歌う姿、演奏する姿、踊る姿を見て感動した者も少なくないだろう。音楽に力をもらつ、元気づけられるという言葉をよく耳にする。今回の脇高祭でまさにその通りだという印象を受けた。

一年生にインタビュをしたとおりこのライブは大成功であつた。大きな事故もなく、無事に楽しくライブを終えることができた。来年のライブにも期待したい。



アイチでつながる絆 パフォーマンスで 心をひとつに

体育祭前日、各クラスの熱気が詰まつたアイチが運動場に立てかけられた。体育祭の練習をするために運動場へと集まる大勢の生徒からは、「おおー」という歓声と共に思い思いの感想が練り広げられていた。

一年生にとっては初めてのアイチ製作。想像していた以上に時間を費やし、苦労するものだったが、出来上がったときの達成感は、それもまた初めて味わうものだったに違いない。それに比べて三年生は、これまでの経験を活かし、手際の良い作業とクラスの団結力で、より技術の高い作品を作ることに力をいれていた。三年生のアイチ作品はどれもすべて、

毎年個性豊かに練り広げられるクラス対抗のパフォーマンス。今年是一年六組、二年五組、三年五組がそれぞれ学年一位を獲得した。

例年にも増して、今年にはきらびやかな小物を使った衣装が多く、輝かしい体育祭の幕開けとなつたことである。特に三年生はダンスのクオリティも非常に高く、観る人を魅了した。毎日放課後に校庭で曲を響かせて踊っている姿は、とても熱意に溢れており、本番ではそれ以上に素晴らしいパフォーマンスを見せてくれた。

三年生で特に得点の高かつた三年五組の演技は、EXILES「Shoo Shoo TRAIN」で、団結力のある力強いパフォーマンスだった。また、二年生では五組が二〇〇点という例年まれに見るハイスコアで一位を獲得した。トンネルをつつたり、ウェーブを効かせたり、他の組にはない大技を披露し、観る人を圧倒させた。そして、脇高祭初参加である一年生は、六組がフレッシュなパフォーマンスで場を盛り上げ、高得点を得た。

どのクラスも順位をつけられないほど、素晴らしい演技を見せてくれた。クラスの絆も深まつた。



細部までこだわつたレベルの高い作品で、その存在感は、一・二年生の作品と比べても群を抜いたものだった。

生徒全員協力により、出来上がった十八枚の友情のあかしは実際の大さきよりも、大きく見え、迫力があつた。それらのアイチは、各クラスひとりひとりの笑顔を表しているかのように、色とりどりの個性豊かな輝きを放つていた。その輝きが太陽を呼び寄せたのであろう。当日は雲ひとつない晴天にみまわれた。

そんな恵まれた天候の下、伝統ある我が脇町高等学校 学校祭 体育の部は開催された。